令和３年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　小５１　練馬区立大泉第四小学校

	課題分析	授業改善策
国語	・書くことへの抵抗感は減ったが、まだ意欲や書く力には個人差がある。特に、書きたいことを決められない児童や、考えたことを文章にまとめることに課題がある児童が多数いる。 ・正確に読めない、すらすら読めないなど、音読に課題がある児童がいる。 ・漢字の定着に課題がある。小テストはできるが、使えるようになっていない。字形を捉え、丁寧に書くことが定着していない児童は、覚えて使うことに課題が見られる。 ・助詞など、文章で使う言葉のきまりが定着していない。促音拗音など。時間の確保もできていない。 ・学年相応の本を選ぶことができない。	・書く目的を明確にするよう単元の導入を工夫する。 ・グループで交流活動や、タブレットの活用を通して、情報の収集や題材の設定を行う。 ・モデル文を活用し、書き方の指導を行う。 ・はじめ、中、終わりの構成を意識できるように、メモを活用しながら構成を組み立てる。 ・様々なバリエーションで音読指導を行う。 ・家庭学習だけでなく、授業や朝学習で指導を行う必要がある。 ・習った漢字を使うように日ごろから指導し、習慣付ける。 ・上手なノートを紹介したり、友達とノートなどを交換して、誤字を確認したりする。 ・日記などで日常的に作文指導を行う。 ・朝学習の時間を活用し、語句の使い方などを指導する。 ・読書指導や音読指導を丁寧に行う。 ・貸出ランキングや、おすすめの本の紹介コーナーを活用する。 ・ブックトークなど、友達同士で本を紹介し合う活動を行う。
社会	・知識習得型の授業から、主体的、対話的な授業を行えるよう授業づくりを行う。 ・課題解決への必要感をもたせるために指導の工夫（発問）が必要である。 ・児童の発達段階に応じて、資料の読み取りの指導を丁寧に行う必要がある。 ・個人差が大きく、学んだ知識の活用場面で課題がある児童がいる。	・ゲストティーチャーなどの体験活動の時間を確保する。 ・ICT を活用した資料提示を行い、視覚的に分かりやすい導入を行う。 ・生活体験を共有したり、資料提示から課題発見したりすることを通して、授業を展開する。 ・資料の読み取り方を、段階的に繰り返し指導する。 ・オープンエンドな話し合いのテーマを設定し、深い学びを促す。 ・多面的、多角的な思考を価値付け、思考の視野を広げ、深い学びを展開する。

算数	・かけ算九九や、たし算・ひき算の筆算などの計算を身に付けている児童は多いが、定着に時間がかかる。	・授業の中で、練習問題を解く時間を設けるようにし、計算方法に慣れさせる。タブレットを用いて、それぞれの理解度に合った問題を解くようにさせる。家庭学習で、計算練習や問題練習に繰り返し取り組ませていき、さらなる定着を図る。また、習熟度別学習を生かし、個別指導が必要なクラスは授業者とＴ２の複数体制で指導を行う。
	・数学的な思考力が必要となる問題を苦手と感じている児童がいる。単元、授業の中で、教員が考えさせる時間と定着を図る時間を見極め、取り組む必要がある。	・課題把握の場面で、問題を読み取る経験を積ませるとともに、具体物、図などを使いながら問題場面を理解させ、それを用いて問題解決していく。 ・授業の中で児童に考えさせたいことを明確にし、めあてとまとめの一致を図る意図的な指導を行う。
	・測定や図形の学習では、量感、測定方法、単位換算をなかなか理解できない児童がいる。	・日常生活の経験を振り返り学習に活かしたり、単位換算においては法則性などを楽しんで見付けにしたりして、苦手意識をもたないように主体的な活動を大切にし、経験を積ませていく。
	・高学年では、文章題の内容を数直線に表して考える方法が身に付くように指導している。割合を使った考え方で、数直線を用いることに慣れる必要がある。	・低・中学年から、ドット図や線分図、数直線などの図をよみ取ったり、かいたりする活動を積極的に取り入れ、図のよさを感じるように指導をしていく。文章問題では、もとになる数（１に当たる数）が何かを考えさせてから課題に取り組ませる。それにより、比べられる数と、もとにする数との関係性を理解させる。
理科	・生き物の観察記録では、どこをスケッチするか、記録には何を書くか指導したが、理解できない児童も見られた。	・観察記録では対象物の特徴をしっかり捉えさせるよう指導をし、絵で表す部分を分かりやすく示したり、記録する観点を書いた紙をノートの後ろに貼らせていつでも見返したりできるようにする。
	・実験・観察では、児童が予想し見通しをもって学習に取り組めている。しかし、科学的な根拠のある予想や仮説をもたせることの指導は不十分である。	・既習事項や体験から根拠をもって予想や仮説をたてられるように指導していく。児童に多くの体験をさせて、日常生活との接点を感じられるように指導をする。自分の考えをもてるように、考える時間を取った後、話し合い活動を取り入れる。
	・結果と考察を混同してしまい、結果から分かったことを見出せない児童もいる。	・ 実験終了後には、自ら結果の分析をし、考察が書けるよう、書く視点を指導する。 ・事象の変化について説明したり、書いたりする活動を取り入れ、自分の考えを表現することができるようにさせる。考えがもてない児童には個別に予想や結果から観点を与えるなどの支援をする。
	・知識の定着について個人差が大きい。	・学習した知識が定着するように、授業の最初に前

		時の内容の振り返りをしたり、確かめプリントなどを行ったりして、定着を確認する。
生活	・新型コロナウイルス感染症の関係で、自然の観察や児童同士の交流などの活動が十分に行えなかった。 ・観察をして思ったことや感じたことを、自分の言葉で表現することに課題がある。 ・観察する対象の特徴を捉えて絵を描くことに課題がある。	・タブレット等を活用し、間接的な交流を行うなど、活動を工夫する。 ・思ったことや感じたことを話し合う場を設け、板書して共有することで、書く際に参考にできるようにする。観察する際には、視点（五感を使った観察）を与えて行わせる。 ・ＩＣＴ等を活用して、見本を提示したりすることで、観察や記録の仕方のポイントを示したりする。 ・タブレットを使って写真を撮影し、観察記録に活用する。
音楽	・旋律をよく聴き取りながら、音程に気を付けて歌おうとしている児童が多いが、感染防止のため、発声の指導まではできなかった。 ・楽器を扱う活動を楽しみにしている児童が多いが、読譜、楽器の演奏技能、技能の習得までの時間は個人差が大きい。 ・演奏の聴取はほとんどできていない。 ・鑑賞においては、楽曲に興味をもち、音に着目して聴けるようになってきた。	・歌唱はマスクをしながらの活動のため声量を求められないが、少しずつ発声や表現の工夫を共有する場を設定していく。 ・授業では鍵盤ハーモニカとリコーダーは運指の確認のみで、実際に音を出しての練習は家庭学習で行っている。新型コロナ対策をしながら、演奏聴取ができるようにしたい。 ・グループ活動は制限されるが個人で簡単な旋律やリズムづくりの経験を積ませていく。 ・目的に合った音源や映像を見付け、よい音楽に触れ、音楽的感性を育てていく。
図画工作	・造形活動に対する意欲が高い児童が多いが、発想することが苦手だったり、手が止まってしまったりする児童も数名見られる。 ・発達段階に応じた表現方法や用具の使い方を指導しているが、どの学年も技能に関しては個人差が大きい。	・児童が自分なりの発想を広げ、思いを深められるよう、題材の設定や導入の方法を工夫したり、友達の作品を紹介するなどの声かけを工夫したりしていく。 ・用具の使い方を実演して見せるなどして、個別指導を徹底する。学年を越えて繰り返し指導していくことで、技能を定着させていく。
家庭	・調理実習がコロナ禍でできるかどうか決まらず、指導計画が立てにくい。 ・家庭での生活経験、取り組みに対する姿勢などから意欲や技能に差がある。	・年間指導計画を見直し、題材の入れ替えを行う。 ・児童の取り組みの様子を把握し、個別指導を丁寧に行う。 ・ICT を活用して、動画素材等で分かりやすい授業を行う。 ・家庭での取り組みに関しては、家庭科だよりを発行してその意味ややり方について詳しく提示する。

体育	・体育の学習への意欲に差がある。 ・運動への意欲は高い児童が多いが、個人によって運動経験や運動能力に大きな差が見られる。	・スモールステップで技能ポイントの指導を行う。教材研究をし、授業の中でどこまでを目指すかを考える。体育の時間で完結を目指すのではなく、一つのきっかけとして、休み時間にも行いたいと意欲が高まるよう言葉がけをしていく。
	・技能面の習得に十分な時間の確保が難しい。	・技能のポイントを明確にするとともに、個に応じた課題設定をすることで、目標をもって運動に取り組み、課題解決して達成感を味わわせていく。
	・関わり合いながら学ぶ場面が少なかった。また、低学年では勝敗にこだわる児童が多かった。	・児童にとって、勝敗以外にも、公平性などの体育の学習価値を伝えていくようにする。チームの中でよい点を伝え合う際も、のような価値があるのか等、児童にとって必要感のある学びになるよう動機付けする必要がある。
	・振り返りの時間の確保ができず、時間配分に課題がある。そのため、思考力と判断力の見取りに課題がある。	・評価規準を明らかにして、授業づくりを行う。 ・評価方法の簡略化。本時で振り返りの時間を設ける。 ・授業の流れをはっきりとさせる。例えば、 ①　あいさつ　②準備運動　③めあて ④ポイントタイム　⑤チャレンジタイム ⑥共有　⑦片付け　⑧整理運動　⑨振り返り ・準備と片付けでは、時間を測り、見える化を行う。
	・集団行動の経験が少ない。	・体育朝会で学習したことを、各学級の体躯の学習でも継続して丁寧に指導していく。
	・年間指導計画の工夫が必要。	・来年度の行事予定を考え、年度末に見直す。
外国語	・一人ずつ答える場面が苦手な児童がいる。 ・外国語に対して苦手な児童がいる。	・学年が上がるにつれ、学習の積み重ねはできている。発達段階に応じて、児童にとって学習に達成感のある評価方法を考える。（シールによる積み重ね。）
	・様々な児童を活躍させる場面が少ない。	・意欲面の見取りを充実させるために、積極的に価値付けをする。
	・学んだ表現や語彙をスピーチに生かすことができているが、交流（感想を伝え合う・リアクションなど）に課題。リアクションも入れてコミュニケーションをとれるようにしたい。（思考面の習熟。）	・コミュニケーションゲームを多く取り入れ、発表の機会を増やす。 ・指導者同士でゲームを共有し、指導体制を確立する。
	・交流活動中の評価が難しい。	・振り返りカードを活用し、どのようなことに気をつけて交流できたか、どのような感想をもったかを確認していく。また、よいリアクションをしていた児童を、教師だけではなく児童同士で価値付けし合う場面を設け、評価に生かしていく。